

2022/12/06 令和4年度地区防災計画の作成に関する基礎研修会
オンライン

小さく生んで大きく育てる



岐阜大学 流域圏科学研究センター
清流の国ぎふ 防災・減災センター

小山 真紀

maki.k@gifu-u.ac.jp

<https://researchmap.jp/makik>

<https://www.facebook.com/maki.koyama.14>

地区防災計画の基本的な考え方

- 地域コミュニティ主体の計画
 - 地域で計画し、行政に計画提案することができます
 - 市町村の防災会議で認められれば、市の地域防災計画に作成した地区防災計画が規定されます
- 地区・地域の特性に応じた計画
 - 地区・地域の特性(地区の広がり, 地形, 産業, 住民, 住まい方...)に応じた計画, 地域のニーズに応じた計画をつくることができます
- 継続的に地域防災力を向上させる計画
 - 地区防災計画の中に, 計画の遂行と訓練での実践, それに伴う見直しの流れをタイムスケジュールとして入れることで, 継続的な実践, 見直し, 改善のサイクルが実現できます

**地区防災計画を策定する目的は, 地域防災力を高めて
地域コミュニティを維持・活性化すること**

多様な地区防災計画

地区防災計画ライブラリ



▶ 組織・予算・税制	▶ 災害情報	▶ 防災対策	▶ 被災者支援	▶ 広報・啓発活動	▶ 国際防災協力	▶ 会議・検討会
------------	--------	--------	---------	-----------	----------	----------

[内閣府ホーム](#) > [内閣府の政策](#) > [防災情報のページ](#) > [広報・啓発活動](#) > [みんなでつくる地区防災計画](#) > 地区防災計画ライブラリ

地区防災計画ライブラリ

「地区防災計画ライブラリ」は、地区防災計画の策定に向けた活動を促進するため、これから地区防災計画の策定を目指す方々や、既に策定された地区防災計画の更なる改善を目指す方々に向けて、平成30年4月1日現在で、地域防災計画に反映された地区防災計画のうち、162事例を地域別・テーマ別に地区防災計画の原文を掲載したものです。

地区防災計画は、政府が示す「ひな形」に倣って策定していただくものではなく、地区居住者等の発意により、地域の課題や対応できる策を地域の中で話し合いながら、工夫して策定されるものです。このため、地区防災計画を推進するためには、多くの事例を積み重ね、様々な地区の経験から学び合っていくことが重要です。「地区防災計画ライブラリ」は、そのための一助として活用していただけますと幸いです。

今後、新しい事例が出てきましたら、定期的に更新していきます。

(最終更新日 平成31年4月25日)

知る

まずは、ご関心のある地域を下の日本地図からクリックしてみてください。

<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/chikubousai/chikubo/chikubo/index.html>

地区防災計画の例(シンプルなものの例)

丹生俣地区防災計画(土砂災害避難計画)

丹生俣地区の目標	人口	世帯数	65歳以上の割合
「被災ゼロ 事前の準備が身を守る」	170人	82世帯	62.4%
(平成28年9月30日現在)			

避難する際の基本的な考え方

- ・土砂災害警戒区域にかからない場所へ避難するのが大原則になります。
- ・危機意識を持って早めの避難を心がけるとともに、予め避難先を決めておきましょう。
- ・お年寄りや体の不自由な方などを地域で助けあい、それぞれができるベストを尽くしましょう。
- ・土砂災害の危険が迫っている時、津市から注意喚起や避難勧告等の情報が発令された際には、速やかに避難しましょう。

丹生俣地区の避難先

- ・台風接近時など大雨が予測できる時などは、親類や友人宅等の安全な場所(土砂災害警戒区域にかからない場所)へ早期に避難しましょう。
- ・お年寄りや体の不自由な方などは、福祉施設を活用するなどし、特に早期に避難しましょう。
- ・時間に余裕がある場合は、土砂災害警戒区域にかかっていない市の指定避難所へ避難しましょう。(例:八幡高齢者生活福祉センターなど)
- ・丹生俣多目的集会所については、土砂災害警戒区域にかかることから大雨警報(土砂)発表時には、避難所として開設しないが、地域の拠点となる施設であることから、安全な避難先へ避難する前の中継所として活用します。
- ・土砂災害警戒区域外の指定避難所へ避難することが困難な場合は、中俣集会所や天理教国司分教会へ避難します。
- ・八手俣川が増水し中俣集会所や天理教国司分教会が浸水する危険が高まった際には、より高いところにある空家を活用します。
- ・自宅が土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域にかかっていない場合は、自宅に留まることも一つの避難行動となります。

台風接近前の避難

- ・親類や友人宅へ
- ・福祉施設の活用も検討

台風接近直前の避難

- ・市の指定避難所へ
- ・丹生俣多目的集会所も中継所として活用
(避難勧告等発令時は使用できません)

避難勧告等発令時

- ・中俣集会所や天理教国司分教会へ

八手俣川増水時

- ・浸水のおそれのないより高いところにある空家へ

避難時のルール

- ・避難する際には、避難先を隣近所等に連絡することとし、連絡を受けた住民は、速やかに自治会(自主防災協議会)会長へ報告します。
- ・大雨時に避難する際には、一人で避難せず、複数人で避難します。
- ・自治会(自主防災協議会)会長は地区住民の避難先を把握し、避難先への避難支援が必要な者がいないかどうかを確認します。
- ・避難支援する際には、要支援者に対して、複数の支援者で対応するように予め決めておきます。

避難勧告等の情報の入手方法

- ・同報系防災行政無線
- ・電話応答システム
- ・津市防災情報メール
- ・ファクス配信
- ・エリアメール
- ・CATV
- ・広報車
- ・津市HP

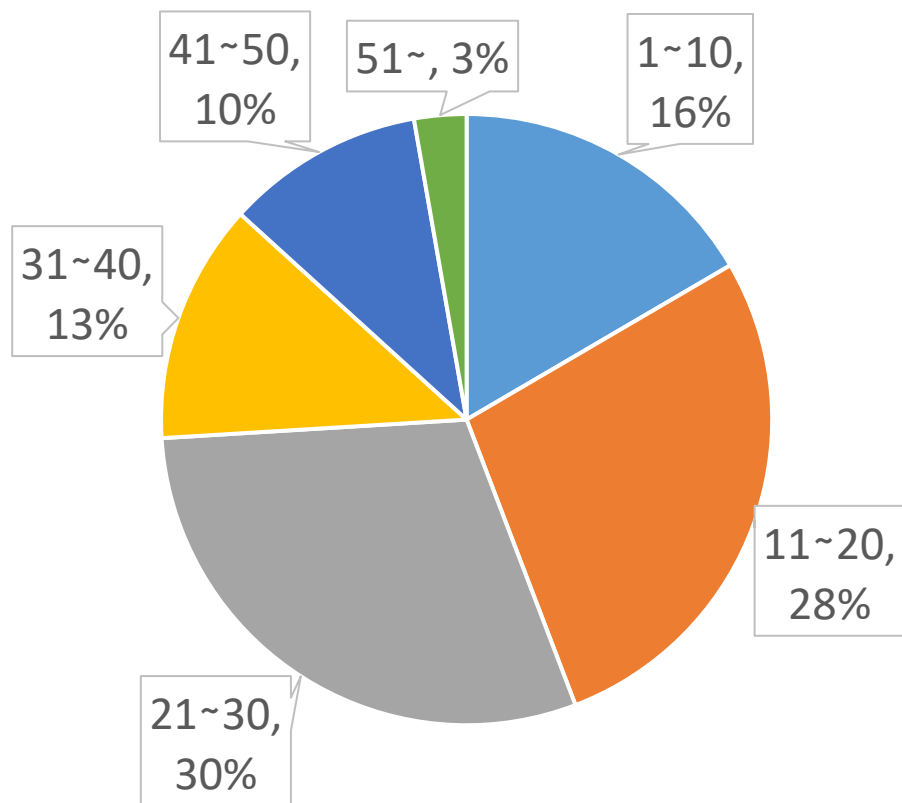


<http://www2.bosai.city.tsu.mie.jp/bousai/>

同報系防災行政無線による避難勧告等の伝達パターン

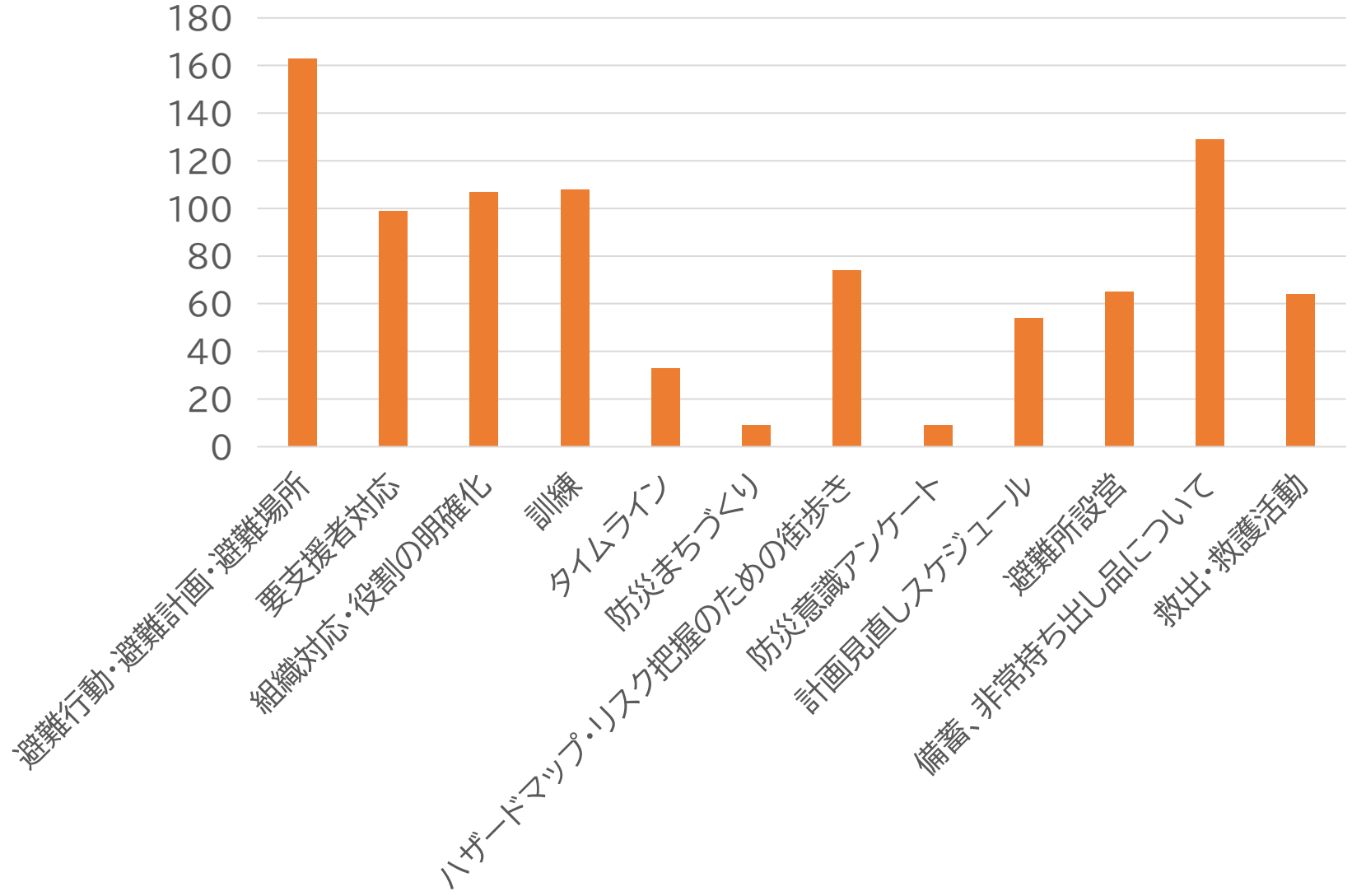
サイレンパターン	吹鳴:5秒 休止:6秒 吹鳴:5秒	吹鳴:3秒 休止:2秒 吹鳴:3秒 休止:2秒 吹鳴:3秒
内容	避難勧告 (サイレン音+音声放送)	避難指示 (サイレン音+音声放送)
音声放送内容 (参考)	土砂災害が発生する危険性が高まっているため、〇時〇分に〇〇地区に避難勧告を発令しました。	近隣で土砂災害が発生しており、大変危険な状態であるため、〇時〇分に〇〇地区に避難指示を発令しました。

ページ数について



地区防災計画ページ数	
ページ	計画数
1~10	30
11~20	50
21~30	54
31~40	23
41~50	19
51~	5
計	181

取り組み内容(複数記載)



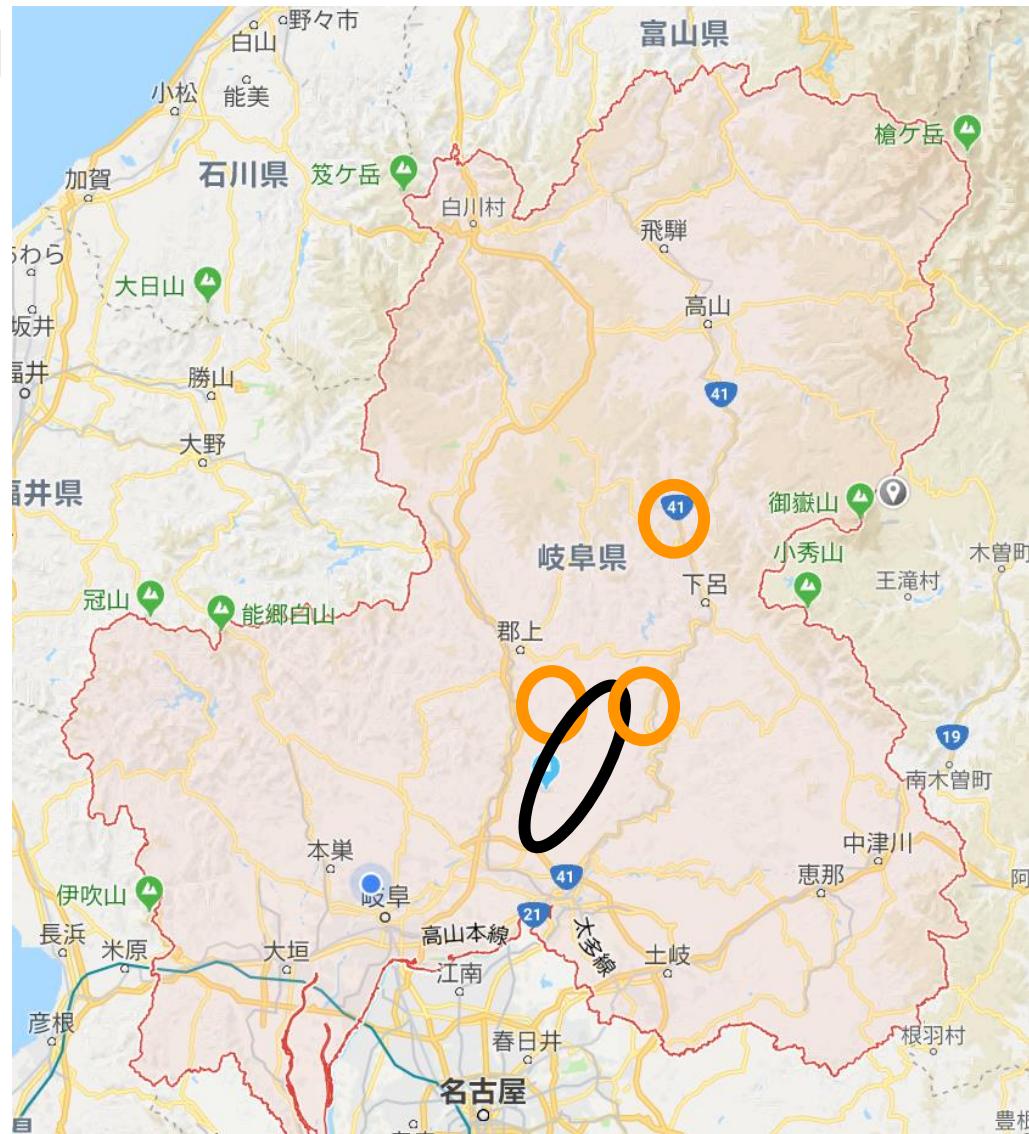
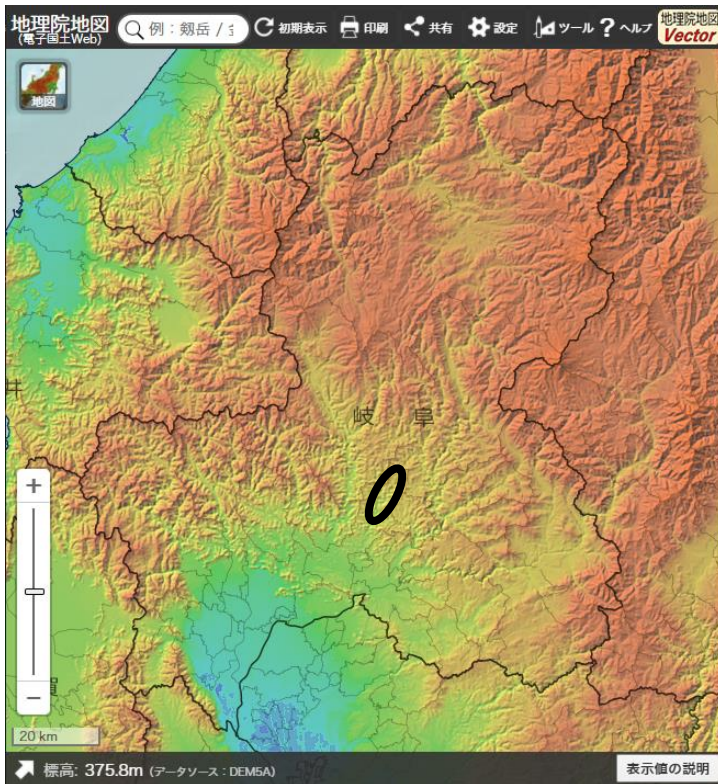
関市武儀地域の取り組み事例

地域:自治会連合会武儀支部, 単位自治会

支援者:小山

平成30(2018)年7月豪雨被害地域

- 大きな被害が集中した地域は、関市(上之保, 武儀, 富野), 下呂市(金山, 萩原), 郡上市(小那比)



直面した問題

- 2019年度は関市が災害避難カード事業を優先したため、地区内での自治会主導の取り組みをする余裕がなくなった。
- 2020年度は旧村ごとに3回ずつの勉強会を行い、各単位自治会（26自治会）ごとに自分たちの地域の防災訓練計画を作るところまで進めたが、自治会長の任期が1年であるため、計画したものの実施できない（作ったときの自治会長と、実施するときの自治会長が違うため）自治会もあった。
- 2021年度は自治会長が替わったため、地区防災計画の作成について一から説明し直し。実施に向けて全自治会長の意識合わせを再度行う事が困難（意識合わせに1年くらいかかる一方、任期も1年なので、意識あわせができた時点で振り出しに戻る）。
- コロナ禍で、会合ができない時期があった。

問題への対応(2021~2022年度)

- 当初は全26単位自治会一斉に地区防災計画を作成することを目指していたが、2021年度は3つの旧村ごとに1自治会をモデル地区として先行して取り組む事に方針転換。
 - 2021/10/6 関市自治会連合会武儀支部の役員会で方針決定
 - 2021/11/18 自治会長会で方針共有し、モデル自治会となる自治会の選定と個別に声掛け
 - 2021/12/17, 2022/1/26, 2022/2/16 3自治会を対象とした地区防災計画作成打ち合わせ
 - 2022/3/10 自治会長会で3自治会の地区防災計画案お披露目
- 2022年度はさらに2つの単位自治会をモデル地区として、2021年度と同様に取り組み中
 - 2022/8/23, 9/1 平成30年7月豪雨振り返りワークショップ
 - 10/18, 11/25, 12/23 2自治会を対象とした地区防災計画打ち合わせ
 - 2023年1月の市の防災会議で諮れるよう準備中

地区防災計画作成勉強会

- 平成30年7月豪雨時の自治会長や自分の状況, 周りの状況の振り返り
- 自分たちの自治会で, まず何をまとめるかについて議論
 - ある自治会は, 作成した防災訓練を出発点として, 安否確認と連絡網を中心とした計画作成することに
 - 避難タイミングを考える情報について, 地域内で考える必要があるとの認識をもった自治会も(キキクルなどの情報だけでなく, 地域内の河川の水位など)
 - 情報を確認して. というだけでは確認できない人が多いので, 出水期前くらいにみんなで情報の確認の仕方について試してみる機会を作るなどの案も



地域にあった計画づくり

地域によって事情は様々

取り組みやすい環境を作る！

- 地域で主体となって動く人は誰か
- 支援者は継続的に相談に乗れるか、相談しやすい環境にあるか
- 役所は協力的か



	子育て	学生	防犯会	社協 民生委員 児童会	自治会	介護福祉センター
危険箇所洗い出し	○		○		○	○
防災マップ作成		○	○		○	○
要支援者避難支援			○	○		○
要支援者避難支援マップ作成			○	○		○
要支援者避難訓練	○	○	○	○		○
要支援者避難訓練			○	○		○

地区防災計画を作成する上で大事なこと

- 作成する当事者
 - 自分たちの防災課題に向き合う
 - それぞれの地域にあったやり方
 - 最初から完成度の高い計画を作ろうとしなくて良い(まず手が届くところから)
 - 訓練を通じて継続的に見直し, 改善する
- 作成する支援者
 - 地域に寄り添った支援(悩みどころに応じた情報提供, 整理など)
 - 最終的には地域の人だけで訓練・見直しを継続して進められるような仕組みを目指す
 - 関わり方に応じた支援(継続的に支援できるのか, 一時的な支援なのか)
- 行政
 - 地域に寄り添った支援・関わり
 - 防災・減災を実現したいという地域の思いと対策を応援する
 - 管理ではなく支援の目線で関わる